

学校・家庭・地域連携協力推進事業等 実践事例集

【家庭教育支援】



静岡県では、学校・家庭・地域の連携・協働による社会総がかりの教育を推進しています。

教育活動を進める県内市町の協力により、地域学校協働本部や放課後子供教室、家庭教育支援、通学合宿など地域ぐるみで子供を育む活動の実践事例集を作成しました。

地域の様々な活動の事例集を活用し、社会総がかりの教育体制の一層の充実を図ります。

地域学校協働本部

地域住民・団体が学校とともに、目標やビジョンを共有し、地域ぐるみで子供たちを育む緩やかなネットワークを構築。

放課後子供教室

放課後等の子供たちの安全・安心な居場所として、地域住民の参画を得て、多様な体験活動や地域住民との交流、学習機会を提供。

家庭教育支援

すべての親が安心して家庭教育を行えるよう、家庭教育支援員の養成や家庭教育支援チームの組織化、学校等との連携により、保護者への学習機会の提供や相談対応等を実施。

通学合宿

子供が自己を律しながら生きる力を育むとともに、地域の教育力の向上を図ることを目的として、異年齢の子どもたちによる共同生活を実施。

静岡県教育委員会

市町名	熱海市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和6年度
--------	-------

立ち上げ経緯	少子化の影響もあり、イベントを実施しても参加人数が少ないという課題を踏まえて、市内で実施するイベントとの連携を企画。南海トラフ地震臨時情報が発表されたこともあり、今年度は防災教育に注力することに決め、消防が主催する「消防ひろば」でブースを設け、より多くの家族に防災に関心を持ってもらいたい思いから立ち上げた。
--------	--

活動名	防災クイズ×ビンゴ in 消防ひろば			
実施箇所名	渚小公園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭内の防災教育力の向上、防災意識の啓発		
	開催日数等	1日	実施場所	渚小公園内の1区画
	参加児童・生徒数	約40人	ボランティア数	5人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年秋に開催される子どもに大人気のイベント「消防ひろば」を主催する熱海消防と家庭教育支援員が初めて連携 形式は、参加者自らがランダムに数字を入れてビンゴ用紙をつくりくじで当たった数字の問題に3択の中から正解、2列揃ったら上がる <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> クイズに加え、ゲーム性の高いビンゴを取り入れることで子どもにも興味を持たせ飽きずに楽しめる形式にした。クイズの難易度は小学生レベル。 危機管理課に依頼し「アルファ米」を用意、ビンゴになった参加者に配布した。合わせて、虐待対応ダイヤル189いちはやくの啓発品も配布。 			
	連携先	熱海消防・危機管理課・子育て支援室		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 予想を上回る集客があり、盛り上がった クイズの難易度が小学校中高学年向けであり、実際に参加した子どもには少し難しかったため、親子で対話して回答を考えていた。「子どもだけでなく親も勉強になった」と感想があった 熱海消防・危機管理課・子育て支援室と連携したことで、今後の活動にもつながる縁ができた 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ビンゴという形式であることで、途中参加がしにくい クイズの難易度が実際の参加者には難しかったことからもう少し難易度を下げた問題も取り入れるべき 			
備考				

参考URL	https://www.city.atami.lg.jp/kurashi/kyukyu/1000527/1004884.html
-------	---

↑消防ひろばについて

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 5 年度

立ち上げ経緯

三島市家庭教育支援事業は、平成27年度に静岡県教育委員会のモデル5市の一つとして活動を始め、同年度に文部科学省の「家庭教育支援チーム」としても登録されている。令和4年度より、アウトリーチ型支援にも力を入れ、その一つとして、本活動について令和4年度検討、5年度から実施することとした。

活動名	アウトリーチ型講座「親子でスタートダッシュ!～小学校は楽しいよ～」		
実施箇所名	三島市民生涯学習センター内 児童センター軽運動室		
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援、小学校就学時の不安解消	
	開催日数等	5年度1回、6年度2回	実施場所 児童センター軽運動室
	参加児童・生徒数	15組(37人)	家庭教育支援員・サポーター 5人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、各小中学校へ訪問・実施していた家庭教育講座「つながるトーク」を、アウトリーチ型として児童センター軽運動室で開催。 対象を未就学児をもつ保護者とし、就学に向けて不安や悩みのある方に対し、家庭教育について学習する場を提供。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> (R6)年間2回・土日開催とし、1回目を日曜日、2回目を土曜日とすることで、仕事をもつ親でも参加しやすくした。 開催日時を、保護者が小学校入学を意識し始める時期である「就学時検診」の前後に設定したことで、よりタイムリーな時期に開催した。 子どもも同席可とし、託児の心配を無くし、参加しやすくした。 児童センター職員に協力を要請、子どもたちが飽きない工夫(ぬり絵、折り紙、貸し出しおもちゃなど)を行っていただいた。 三島版つながるシート「親子でスタートダッシュ」を作成、講座で使用した。 こども保育課を通じて、市内公立幼稚園・保育園にちらしを配布、周知した。 		
	連携先	児童センター、こども保育課、生涯学習課	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 初年度(1回実施)10組19人、令和6年度(2回実施)15組37人の参加があり、充実した講座を行うことができた。 参加者から「入学前にお話できて良かった」「不安が解消された」「もっとこのような講座を増やしてほしい」など、肯定的な意見がとても多かった。 近隣市町に在住の方からも参加申込みがあり、就学前に悩みを抱える方が多いこと、需要が充分にあることが分かった。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> より魅力的な講座にしていけるために、三島版の「つながるシート」の改良が必要だと感じている。 こども保育課を通じて公立の園に周知したが、民間の園に対して一律の周知が難しい。(児童センター、市立図書館などにちらしを配架したが、今後広報紙等へ募集記事を出すことも検討していきたい。) 他市町と連携したり、情報を共有したりすることが難しい。 		
備考			

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯 三島市では、平成27年度に静岡県教育委員会のモデル5市の一つとして活動を始めた。また、同年度、文部科学省の「家庭教育支援チーム」に登録された。

活動名	家庭教育講座・個別相談会		
実施箇所名	公立小中学校21校、公立・私立幼稚園・保育園 等		
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援(学習の場の提供、子育てに関する悩み相談)	
	開催日数等	50回程度	実施場所 各小中学校等
	参加保護者数	250人ほど	家庭教育支援員(5名) 家庭教育サポーター(5名)
	概要・特徴	<p>・すべての保護者が安心して家庭教育を行えるように県・市作成の「つながるシート」を活用して、講座、相談を実施。</p> <p>・市内の各小中学校や幼稚園・保育園を会場として、保護者の皆さんへ学習の機会の提供や家庭教育相談の実施等、家庭教育支援活動を行っている。</p> <p>・家庭教育支援員(通称:家庭教育アドバイザー)の他に家庭教育サポーター(元PTA役員経験者)がいるので、グルーptークで話しやすい雰囲気づくりをしている。</p> <p>・個別相談会については、事前にチラシを各校で配布し開催を知らせている。</p>	
	活動上の工夫	<p>・年度初めに、市担当者が校長会や園長会で事業説明・資料配付を行い、講座や相談会の実施に向けたお願いをしている。</p> <p>・月に1回程度、家庭教育支援員と家庭教育サポーターで打合せを行い、講座の内容や役割について確認している。(講座の内容、司会、アイスブレイク役などを決定)</p> <p>・依頼のあったテーマについて県「つながるシート」を参考に、児童生徒や地域の実態に合わせた三島版「つながるシート」を作成している。</p> <p>・講座実施後、参加者からアンケートを取り、次の講座等に生かしている。</p> <p>・個別相談会では、授業参観日や保護者面談の日に設定することが多く、予約なしで相談することも可能にし、多くの方が利用できるようにしている。</p> <p>・相談の予約について、これまでは申込み用紙を学校経由で市担当者に提出する形にしていたが、相談者がより相談しやすくするため、また学校教職員の働き方改革に寄与するため、webアンケート機能を活用、学校を経由せず、相談者が直接市担当者に申し込めるシステムに変更した。</p>	
	連携先	学校・園、PTA、家庭教育学級、こども保育課、生涯学習課 等	
活動の成果	<p>・小グループでのトーク形式にすることで、話しやすい雰囲気をつくり、楽しんで講座に参加していただいている。</p> <p>・保護者が自分の子育てや家庭教育を振り返ったり、参考になる情報を得たりして、学び合うことができています。</p> <p>・コロナ禍により、学級・学年懇談会などが減ってしまっているが、講座を行うことで、保護者同士のつながりを築いたり、深めたりする場の提供にもなっている。</p> <p>・これまで公立の学校・園での実施が多かったが、園長会で呼び掛けたことで、民間の園からも講座・相談会と行ってほしいという依頼があった。</p> <p>・相談会の申込みについて、webアンケートを活用したことで、相談件数が増加した。また、相談者との調整も市担当者が行ったことで、学校・園の事務作業に割く時間を削減できた。</p>		
課題等	<p>・すべての保護者が参加することは困難。</p> <p>・学校・家庭教育学級内での適切な講座時間の確保が難しい。(最低でも1時間は確保したいが、学校や家庭教育学級からの要望で行っているために無理なお願いはできない。)</p>		
備考	※学校・園の負担にならないように、準備や片付け等は、家庭教育支援員・家庭教育サポーター・市担当者で行っている。		
参考URL			

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 昭和60年代以前

立ち上げ経緯

活動名	子ども・親子講座(旧:家庭教育講座)			
実施箇所名	各地区まちづくりセンター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	全5回×13ヶ所+α	実施場所	各地区まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	300人程度	ボランティア数	随時
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児等とその保護者を対象に、運動あそびや読み聞かせなど親子が楽しんで参加できる様々なプログラムを提供する講座を、年間を通じて市内各所にて実施 ・保護者が子育てをより楽しむきっかけ作りや、保護者同士の交流プログラムを実施することによって孤立化を防止することなどを主な目的とする。 ・主に連続講座においては各回で異なる講師が多様なプログラムを実施。その他にも、同一講師が一分野に特化して行う講座や保護者のみを対象とした講座等も実施 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭内では取り組みにくい楽しい遊びや体験プログラムを通じて、保護者が我が子の成長を感じる時間にしてもらう内容を実施 ・スマホルールアドバイザー等と連携し、近年急増しているインターネットに関する諸問題等についての内容も盛り込み、将来的なトラブルの防止に努める。 ・子どもの対象年齢を拡大するとともに、兄弟等の同行も許可することにより、参加へのハードルを下げ、保護者が参加しやすいづくりへの配慮を行っている。 ・近年は、従来の市職員が企画運営する講座以外に、民間団体等への委託や講師提案企画による講座も実施。市内全体の家庭教育支援の取組の充実に繋げることを意識している。 ・令和6年度から名称を「家庭教育講座」から「子ども・親子講座」に変更し、印象を和らげることで申し込みやすくなるよう試みた。 			
	連携先	地区読み聞かせ団体、図書館司書、保健師、民生委員、家庭教育支援員、スマホルールアドバイザー ほか		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加申込者数の増加 ・アンケートで「満足」または「少し満足」と回答した参加者の割合:89.4% ・参加者から「保護者同士の交流で小さな不安が解消された」「のびのびと色々な体験ができてよかった」「親がリフレッシュできた」等の前向き感想が多数寄せられた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員やスマホルールアドバイザーの人数が事業規模に対して少なく、またそれぞれが忙しい仕事や生活の合間を縫って参画をしてくださっていることから、予定していた回数分の協力を得ることが難しい。 ・新たな講師の発掘 等 			
備考				

参考URL

ウェブサイト:

https://www.city.fuji.shizuoka.jp/machi/c0204/copy_of_rn2ola000003zd7x.html

 社会教育課公式インスタグラム: https://www.instagram.com/fujii_shakaikyokuiku_official

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

家庭教育支援に関わる団体や個人のネットワーク化を推進するため、関係者同士及び行政とつながる機会を設けることなどを目的に開催。市内の家庭教育支援の輪を拡大するとともに、ゆるやかなネットワークが形成されることで、家庭教育支援チームのような効果を生むことを目指して開催した。

活動名	富士市家庭教育支援交流会			
実施箇所名	富士市教育プラザ			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援に関わる方々への学びの場の提供、参加者同士の交流による地域人材のネットワークの拡大		
	開催日数等	R6/7/30、R7/2/8	実施場所	富士市教育プラザ
	参加児童・生徒数	61人	ボランティア数	
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援に関わる活動を行っている方や関心がある方を対象に開催 ・参加者同士のつながり・ネットワークづくり、情報交換や連携のきっかけをつくることを主な目的とする。 ・大学教授等による基調講演、市の家庭教育支援の取組紹介、参加者同士の意見交換会等を実施 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援に関係性のある人材（子ども読書アドバイザー、主任児童委員 ほか）を所管する部署に情報発信を依頼 ・繋がりのある人材から口コミ等で開催情報を拡散してもらう。 ・基調講演を家庭教育に精通する静岡県の社会教育委員長に依頼するとともに、交流会の立ち上げの際にアドバイスを頂いた。 			
	連携先	家庭教育支援員、スマホルールアドバイザー ほか		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員等と市の関係性が深くなり、有志の方々に市の事業においてファシリテーターを務めてもらうことなどができるようになった。 ・スマホルールアドバイザーと市がつながり、市の事業等でスマホルールについて保護者に発信する場をつくることのできた。また、スマホルールアドバイザー同士の関係性が深くなり、情報交換や今後の方向性などを話し合うことができるようになった。 ・現場で保護者や子どもに関わる様々な人材に、近年の家庭教育支援における課題や重要事項などについて、感じていることを直接聞き、情報共有等をしてもらうことのできた。 			
課題等	年々、参加対象者を拡大させるなどの変更を加えながら実施しているが、内容や今後の方向性等について悩むことがある。			
備考				
参考URL	https://www.city.fujii.shizuoka.jp/kyouiku/c0301/kateikyouikushien.html			

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度

立ち上げ経緯

活動名	子育て講演会			
実施箇所名	市内全小・中学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援（アウトリーチ型）		
	開催日数等	全小中学校 各1回	実施場所	市内全小・中学校
	参加児童・生徒数	新入学児童・生徒の保護者全員	ボランティア数	随時
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が選定した講師が保護者に対して子育てに関する講演会を実施。保護者が子育てに関する知識を学ぶ機会とするとともに、一人一人が自身の家庭教育を振り返るきっかけづくりを主な目的としている。 ・市内全ての小中学校において、入学説明会等の保護者が一堂に会する場で実施（特別な事情が無い限りは全ての学校で実施） ・小学校では、子どもの気持ち、子どもとの接し方、生活習慣についてなどの内容が多く取り扱われている。中学校では、スマートフォンやSNSに関するトラブルの実例と回避方法についてなどの内容が多く取り扱われている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市職員が事業の趣旨等を各校に説明し、学校の声を聞きつつ、先生方のご理解をいただいて実現している。 ・講師選定の時点から学校に依頼することにより、学校が保護者に伝えたい内容を取り扱うことができる。 ・保護者の家庭教育への関心度によらず参加してもらうため、多くの保護者に聞いていただけるタイミングで依頼（入学説明会や就学時検診等） 			
	連携先	富士警察署少年サポートセンター、静岡県人づくり推進員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、元教員 ほか		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者満足度（5段階中5または4と回答した割合）：88.3%（現時点） ・参加者から「今まさに困っていたことが聞いて良かった」「気づかされる部分があった」「しっかり子どもを見ることと寄り添う事を忘れないようにしたいと思った」等の感想が寄せられている。 			
課題等	・一部に開催に前向きでない学校がある。			
備考				
参考URL				

市町名 小山町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 31 年度

立ち上げ経緯 ことども園入園前の3歳児とその保護者が、多様な講座で学ぶことを通して、子育ての楽しさや素晴らしさを実感できる講座を新規に設けた。保育士、保健師、子ども相談員がスタッフとして常駐している小山町子育て支援センターさんたろうひろばを預かり保育の場として活用する。

活動名	「楽しい子育て講座」事業		
実施箇所名	小山町子育て支援センターさんたろうひろば、小山町総合文化会館		
活動の概要・特徴・工夫	目的	入園前の3歳児とその保護者を対象として、子育ての楽しさ素晴らしさを実感できる親学講座を実施する。	
	開催日数等	9日	実施場所 同上
	参加人数	全9回122人	ボランティア数 全9回23人
	<p><概要・特徴></p> <p>○5月～1月の毎月下旬平日午前中2時間の講座を年間9回実施。</p> <p>○今年度の3歳児とその保護者を対象としている。</p> <p>○子育ての楽しさや素晴らしさを実感できる講座(講話・実技)や保護者同士が交流したり、情報交換したりする時間を設けた。</p> <p>○毎回小山町子育て支援センターさんたろうひろばで、受付・健康観察・預かり保育を実施。保護者のみの講座は隣の建物内で受講した。</p> <p>○子育ての悩みや不安について相談に応じる町相談員、保育士が常駐。</p> <p><活動上の工夫></p> <p>○受付時に、各保護者から保育スタッフがその日の子どもの体調等を聞き取りをし、体調や要望に応じて預かり保育を実施した。保護者は安心して受講することができると好評だった。</p> <p>○年間の前半は、親子で活動する講座を実施した。子どもが預かり保育に慣れてからは、保護者は別室で受講、子どもは預かり保育の講座内容にした。</p>		
	連携先	教育委員会(生涯学習課、こども未来課、学校教育課)、健康増進課、外部講	
活動の成果	<p>○参加した子どもは、預かり保育に徐々に慣れ、保護者も安心して講座に集中することができたので好評だった。</p> <p>○保護者同士がワークショップ等で交流する時間を講座中に設けた。3歳児の子育てをしている保護者同士で情報交換や悩み相談をし合っていた。講座終了後に親子でいっしょに昼食をとるなどの交流の輪が生まれた。</p>		
課題等	○少子化及び両親共働きの家庭が増加し、講座の参加者募集が難しくなってきた。		
備考			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 25 年度

立ち上げ経緯 就学時健診及び入学説明会の全ての保護者が集まる機会において、小学校入学という節目にこれまでの成長とこれからの学びについて考える機会となるよう、島田市ペアレントサポーター家庭教育サポートチームの活動として開始した。

活動名	しまおや講座			
実施箇所名	市内13小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育の推進		
	開催日数等	各校1回	実施場所	各学校
	参加保護者数	9~94人	スタッフ数	1人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌年度の新一年生の保護者全てを対象に、就学時健診または入学説明会で15分間の講座を行っている。 ・ペアレントサポーターが講師となり、各学校の特徴を踏まえながら、アイスブレイクを含めた内容で入学前のポイントを伝えている。 ・令和6年度から講座名称をしまおや講座に変更し、ノートの名称も「おやこスマイルノート」とした。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントサポーター定例会を開催し、各学校のしまおや講座の様子や課題を共有することで、よりよい講座となるよう努めている。 ・就学時健診または入学説明会で開催できるよう学校と調整し、連携を図っている。また、実施後にアンケートを依頼し、講座の充実につなげている。 			
	連携先	市内13小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な先輩ママであるペアレントサポーターが、自身の失敗談を交えながら伝えることで、入学前の保護者の不安を和らげているとともに、保護者は親近感を持つことができ、話を受け入れられる。 ・講座全体については、入学前に身につけたい生活習慣や子供への接し方について、具体的な事例が分かりやすいという評価を得ている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや仕事をしながらの活動であるため、人材確保が課題である。 ・入学前のしまおや講座から入学後のつながるトークへとつなげることで、保護者の学びが継続できる体制を強化していきたい。 			
備考				

参考URL <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯 県のつながるシートを参考に「島田市版つながるシート」を作成し、島田市ペアレントサポーター家庭教育サポートチームの活動として、つながるシートを活用した学習会を開始した。

活動名	つながるトーク			
実施箇所名	市内13小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	保護者同士の学び合い、情報交換、仲間づくり		
	開催日数等	各校1回	実施場所	各学校
	参加保護者数	8~51人	スタッフ数	1人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校の家庭教育学級において、必須の学習会として開催している。 ペアレントサポーターがファシリテーターとなり、家庭教育学級長と6つのテーマの中からシートを選び実施している。 島田市版つながるシートは、小学一年生の保護者向けに実際に島田市で起きた事例を使用する等、身近なエピソードや資料を基に話し合いができるよう作成した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ペアレントサポーターがアイスブレイクを含めた内容で、和やかな雰囲気づくりをしている。 つながるシートの内容については、随時見直し、より共感・学び合いが深まるよう更新している。 ペアレントサポーター定例会を開催し、各学校のつながるトークの様子や課題を共有することで、よりよい学習会となるよう努めている。 			
	連携先	市内13小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 小学一年生の保護者に対して、必須の学習会としているため、全小学校で活動が定着している。 ペアレントサポーターが和やかな雰囲気作りをするため、保護者はスムーズに話し合いができ、共有・共感・学び合いができています。また、日頃の何気ない悩みや不安について相談できることも、保護者の安心につながっている。 			
課題等	・子育てや仕事をしながらの活動であるため、人材確保が課題である。			
備考	島田市版つながるシート 6つのテーマ ①生活習慣、②家庭学習、③ほめ方、叱り方、④親の心構え、⑤ネット社会、⑥読書			

参考URL <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 17 年度

立ち上げ経緯 島田市ペアレントサポーター子育て広場チームの活動として、未就学児の親子の居場所づくりとして開始した。

活動名	子育て広場 ぐうちよきばあ			
実施場所名	島田市立島田第一中学校 地域連携室			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり		
	開催日数等	月1回(年12回)	実施場所	島一中 地域連携室
	参加親子数	平均20 組/回	スタッフ数	6 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 未就学児の親子を対象とした居場所づくりとして、毎月1回子育て広場を開催し、情報交換や日常的な交流の場を提供している。 ペアレントサポーターがスタッフとして常駐し、和やかな雰囲気をつくるとともに、家庭教育相談にも対応し、子育て応援課や健康づくり課等の関係課と連携している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て広場の最後には、わらべうたや読み聞かせを行い、親子で穏やかな時間を過ごせるよう工夫している。 			
	連携先	島田第一中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 同じ月齢の子供の様子を見たり保護者同士で話をしたりすることで、子育ての悩みや楽しみを共有できる場となっている。 ペアレントサポーターがスタッフとして常駐し、親子と顔見知りになることで、日頃のちょっとした悩みも気軽に相談できる環境ができています。 家庭教育講座で知り合った親子の集まる場にもなっており、人とつながれる大切な場となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> より充実した活動となるよう財源確保が課題である。 共働き家庭の増加により、幼稚園や保育園に入園する前の短期間での参加者が増えたため、会話の中から不安や悩みを読み取り、保護者に寄り添った活動をより意識していきたい。 			
備考				

参考URL <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 29 年度

立ち上げ経緯 島田市子ども読書活動推進計画(第三次計画)に基づき、大人を対象とした読み聞かせ講座を開催するため、島田市ペアレントサポーターに「読書推進チーム」を設け、講座を実施している。

活動名	パパとママのための絵本の広場			
実施場所名	金谷公民館・プラザおおるり			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭読書の推進		
	開催日数等	年2回	実施場所	公民館等
	参加者数	親子延べ38人	スタッフ数	5人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> まずは大人が読み聞かせの心地よさを感じ、絵本の良さにふれることで、家庭読書のきっかけづくりの場となるよう企画している。 未就学児をもつ親を対象とし、ペアレントサポーターによる読み聞かせや絵本の紹介、図書館司書による講話、ブックトークを行う。後半は、子どもも参加し、親子で読み聞かせ、おはなし会を行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 夫婦で参加しやすいよう日曜日に開催している。 ペアレントサポーターが選書した「おすすめ絵本リスト」を配布し、ペアレントサポーターのおすすめポイントや、市内3図書館での所蔵を記載している。 			
	連携先	公民館、図書館		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントサポーター及び図書館司書の「おすすめの絵本」の紹介により、保護者が様々なジャンルの本を知ることができる。また、それらの本を実際に手に取って読むことにより、保護者が自身の考え方や視野の広がりを実感している。 様々な絵本にふれることで、保護者自身が読書を好きになり、子供への読み聞かせや親子読書の時間づくりが促進されている。 参加者からは、「いろいろな絵本を知れてよかった」「図書館に行ってみたいと思った」との感想があった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加者は、既に読み聞かせを普段からしている人が多い印象。講座に参加していない人へのアプローチが課題である。 引き続き家庭での読み聞かせに加え、図書館の利用や地域のおはなし会への参加についてもつなげていきたい。 			
備考				

参考URL <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

核家族化と少子化の進展により、日頃赤ちゃんといふれあう機会が少なくなった子供たちに、命の尊さや子供を産み育てることの素晴らしさを知ってもらうことを主な目的として、これから親となる中学3年生に対する「親になること」への準備学習として実施するもの

活動名	中学生赤ちゃんいれあい体験事業			
実施箇所名	島田市立金谷中学校、島田市立島田第一中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	異世代交流、命の大切さを学ぶ、家族への感謝、社会で自分ができることを考える、親子に関わることで新しい視点を持つ		
	開催日数等	7/3,4,5、11/21,22,25	実施場所	市内中学校
	参加児童・生徒数	延べ540人	スタッフ数	延べ10人
	<p><概要・特徴></p> <p>赤ちゃん親子とのいれあい体験より、生命が誕生することの神秘や命の尊さ、家族の絆の大切さを感じとり、子供を産み育てることの素晴らしさや自分の育ちに関心を持ち、自分も大切に育てられてきたことを実感する。また、主に市内在住の赤ちゃん親子と交流することにより、中学生と地域の方々とのつながりを強化していく。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 誕生学と赤ちゃんの抱っここの仕方を学ぶ事前学習と実際に赤ちゃん親子と交流する実践学習に分けて開催している。 1時限1クラスとし、1クラスを5班に分け、1班に1人のペアレントサポーター及び2組以上の赤ちゃん親子を配置し、安心安全にできるだけ長い時間赤ちゃん親子と交流できるように努めている。 			
	連携先	島田第一中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 中学生が「赤ちゃんに接することができる」と回答した割合は、実施前後で5割から約9割に増加した。 自分が大切に育てられてきたという認識が実施前より高まった。 赤ちゃんを直接抱っこしたことにより、将来子供を育てたいという生徒が4割から7割弱まで増加した。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加してもらえる赤ちゃんは2か月～8か月が理想である。1歳を超えると人見知りをしたり、動き回って抱っこできないなど、交流が難しい。 開催日程によっては、赤ちゃん親子が集まりづらい場合があること。 			
備考				

参考URL

市町名 掛川市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿など)	



実施開始年度 平成 31 年度

立ち上げ経緯 「掛川市家庭教育サポートチームつなぐ」のサポーターから、懇談会等に出られない悩みを抱えた保護者を支援できないかという要望があり、10名程のサポーターで「おしゃべりサロン」を立ち上げた。その後、「つなぐ」事務局と共に、相談活動に取り組んできた。

活動名	おしゃべりサロン(相談活動)			
実施箇所名	小学校・地域生涯学習センター等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	①ネットに関する質問&相談(懇談会后) ②就学児を持つ保護者の相談対応(入学説明会后)		
	開催日数等	2日間	実施場所	①小学校内 ②地域生涯学習センター
	参加保護者数	6人	ボランティア数	6人
	<p><概要・特徴> 活動①「つなぐ」サポーターを懇談会時のグループワークに派遣した小学校で、ネットに関する悩みや質問に対応する時間を設けた。 活動②小学校入学児童の保護者を対象に、当日の「入学説明会」後に、隣接する地域生涯学習センターで、就学に際する悩みや心配事の相談に個別に対応した。</p> <p><活動上の工夫> 活動①・「つなぐ」の活動や当日の活動を知ってもらうために、保護者に説明したりチラシを用意したりした。 ・会場を、特別な部屋ではなく移動なしの教室にしたり、説明会会場の体育館に隣接するセンターにしたりと、保護者が気軽に寄れるようにした。 ・当日の相談対応には、ネットに詳しくたり、カウンセリングや発達障害についての実績があったりするサポーターをお願いした。 活動②・学校にお願いして、10月の「就学児健診」時にチラシを配付した。QRコードや電話での予約がなくても、当日の相談も可とした。「入学説明会」前にメール連絡をしたり当日の会の中でも紹介したりするなど、学校側の協力も得られた。</p>			
	連携先	小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動①のネットに関しては、多くの保護者が関心をもち、比較的質問や相談がしやすい内容なので、複数の保護者に対応できた。活動②では入学予定の子どもではなく、就学している上の子について悩みを抱えている保護者にも対応できた。 ・保護者は、悩みを抱えていたが、サポーターに聴いてもらうことで安心して帰宅した。専門的な対応は難しいが、保護者の不安を軽減するという点では成果があったと考える。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動①において事前の予約者はいなかった。入学説明会後の活動は令和4年度から3回目で、ここ2年間、保護者の参加は1名ずつであった。 ・「つなぐ」の活動がまだ広く知られていない現状である。今後も地道に周知をはかっていく。 ・相談活動は、誰でもできるわけではなく、カウンセリングや発達障害等についての知識やスキルを持っていることが必要である。人材育成にも取り組んでいかなければならない。 			
備考				

参考URL

city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/290327.html

市町名 藤枝市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和元年度

立ち上げ経緯 昨今、スマホ等のデジタル機器が乳幼児にとっても不可欠な子守道具となっている実態を鑑みて、デジタル機器を乳幼児に触れさせることで悪影響が出ることがないように保護者向けのメディアモラル講座を開始した。

活動名	メディアモラル講座			
実施箇所名	市内幼稚園、保育園、認定こども園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	(例：学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	開催日数等	平均年8回	実施場所	市内幼稚園、保育園、認定こども園
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	8人
	<p><概要・特徴> 未就学児保護者向けの指導における専門的資質・能力を向上するための研修会を実施し、その受講者が未就学児の保護者を対象としたメディアモラル講座の指導者となり、要望のあった市内幼稚園・保育園等にて約20分程度の指導を行っている。</p>			
	<p><活動上の工夫> ・メディアモラル講座を単体で実施するのではなく、既存事業(子育て出前講座)と同時に開催することで、より多くの方に情報機器の安全利用について周知している。 ・毎年1回スマホルールアドバイザー登録者と家庭教育支援員の方を対象にメディアモラル指導者研修会を開催することで、指導者の育成を図っており、両者の交流の場ともなっている。</p>			
	連携先	スマホルールアドバイザー、家庭教育支援員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ使用の低年齢化が進むなか、情報機器の利用が習慣化する前に保護者に啓発することができた。 ・指導者を対象とした研修会を開催し、家庭教育支援員、スマホルールアドバイザー登録者に活動の場を作ることで、地域の人材育成・活用にも繋がっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人材の確保。 ・事業の更なる周知。 			
備考				
参考URL				

市町名 袋井市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

学園単位で開催している保健委員会という場で、異なる年齢の子どもを持つ保護者が集まり、つながるシートを活用したグループワークを行うことで、個々の悩みや課題の解決に繋げ、今後の子育てに活かせるようにした。

活動名	袋井あやぐも学園保健委員会			
実施箇所名	1中学校、3小学校、5幼稚園・こども園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援(保護者同士の学び合い、情報交換)		
	開催日数等	令和6年11月12日	実施場所	袋井西コミュニティセンター
	参加保護者数	59人	ボランティア数	5人
	<p><概要・特徴> 袋井市教育委員会では、中学校区を一つのエリア(学園)として、エリア内の幼保こ園、小学校、中学校が目指す子供像「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳」の実現のため「自立力」と「社会力」を育てていく「幼小中一貫教育」を平成29年度から市全体で実施している。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会は、小中学校がPTA役員を対象に開催通知を出しているため、養護教諭との打ち合わせを早めに行い、お互いの目的に合うよう事業内容となるよう連携している。 ・つながるシートのテーマは、前年度アンケートで希望があった内容の中から決めるようにしている。また、必要に応じて学園バージョンの内容に変更して使用している。 			
	連携先	幼稚園、こども園、小学校、中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ中学校区の保護者からそれぞれの「今」を知ることができたという感想があった。 ・小学生の保護者は今後進む中学校の様子などを熱心に聞いていた。 ・自分自身の子育てを振り返り、ほかの保護者が行っている事を実践してみようという意欲を持っていただけた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育や子育てに関心がある保護者の参加が多く、真に支援を必要としている保護者の参加は見込みにくい。 ・家庭教育支援員の高齢化、新たな支援員の人材確保が課題である。 			
備考				

参考URL

市町名 森町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 昭和 不明 年度

立ち上げ経緯 森町には公民館がないため、家庭教育の充実を願い各園校に各種学級の学習会を委託し開始した。

活動名	各種学級（幼児教育学級・家庭教育学級・親子教育学級）の学習会			
実施箇所名	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校 他			
活動の概要・特徴・工夫	目的	親の家庭教育向上と親同士の交流を深める		
	開催日数等	66回/年	実施場所	各園・校 他
	参加児童・生徒数	561 人	家庭教育支援員	7 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育学級（年少・年中・年長）家庭教育学級（小学一年生）親子教育学級（中学一年生）の保護者が対象。 ・子育ての不安や悩みは、子供がいくつになってもなくなることはないため、子供の成長にあわせて継続的・計画的に教育学級を設置している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の意識を高める活動や親子のふれ合いを深める活動。そして親自身のリフレッシュを図る活動をおりませ、正副学級長と担当者で学習会を計画立案。 ・その一つの学習会でつながるシートを活用した「家庭教育支援員によるグループワーク」を実施。 			
	連携先	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子の活動を意図的に組み込んでいくことはとても大きな意義と成果があり、どの活動についても保護者からは好意的な意見が多い。 ・地域の方に講師を依頼するなど、地域との交流もできている。 			
課題等	働いている保護者が多いため、教育学級の活動や活動内容を学校行事や教育計画に合わせる必要がある。			
備考				

参考URL

学校・家庭・地域連携協力推進事業等
実践事例集

発行 令和7年3月

発行者 静岡県教育委員会社会教育課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 054-221-3115

F A X 054-221-3362

E-mail kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp